

ネパール・スタディーツアー

1年重松 日本が学ぶべきパンチェッタ村の姿

ネパールのパンチェッタ村に行く前の私が、ネパールについて知っていることといえば、エベレスト、地球上の位置、ヒンドゥー教、国旗、香辛料の多い料理ぐらいだ。それから、日本と比べると、発展途上の国で貧困層の多い国であることだ。しかし、実際に足を踏み入れると村の人々に貧困を感じない。彼らが本当に貧困なのかどうか疑問に思った。そこで、これまでの偏見を捨て、村での生活を通し、本当のネパールの姿を見ようと思い、今回のネパールスタディーツアーでは、ネパールの貧困について日本と比較しつつ考えることにした。村にあり日本の一般家庭にないものは、鶏、水牛、キジバト、山羊などの家畜。それから、田畑や養蜂技術やコーヒーの生産技術などの第一次産業である。それに対して、村に無いものは、高度な衛生知識、医療機関、電化製品、安定したライフラインなどと沢山ある。今の日本では、当たり前なのがほとんどないのだ。にも関わらず、貧困を感じないのは、本当に大切なものは形を持った物ではなく、単に自分を支えてくれる家族や友達であるということを知っている人が多いからだと思う。また、ホームステイを通じたことで沢山の優しさに触れることが出来た。言葉は違うけれど常に自分のことを思ってくれたいた。村の人々は、家族、友人を愛し他人を愛する余裕がある。そう考えると、村人達は幸せなのではないかと思った。また、多くの日本人のの周りには幸せになることができる要素が沢山眠っていると思う。これが今回私が学んだ中で一番大きなものだと思う。

1年井上 日本が学ぶべきパンチェッタ村の姿

ネパールに行ってきた。初めはネパールについてはなんの知識も持っておらず、国旗が独特ということしか知らなかった。そんな時に学校の先生から今回参加したスタディーツアーについてお話を貰った。正直どうしようか結構迷っていた。しかし、貴重な体験だと思いスタディーツアーに参加することにした。今回の体験はほとんどが初めてのことばかりだった。初めての海外、初めての飛行機、初めてのホームステイ、初めてのことがたくさんありすぎて、不安で仕方なかった。「事前学習会で行動力」をつけるという目標を立てた。そしてそれを意識しながら、ネパールスタディーツアーに向かった。飛行機本当に怖くて、

乱気流に初めの飛行機であったため、次の飛行機からそれが怖くて乗るのをためらった。そんなこともあったが無事クアラルンプール国際空港についた。多種多様の人種の人達がたくさんいた。時間になって、カトマンズに向かう飛行機に乗った、飛行機が大阪からの飛行機よりもふた周りほど小さく、カトマンズに向かう人の少なさを感じ取った。その後カトマンズに着きゲストハウスに行った。

カトマンズの都市を見ると、空き地などが多いがびっしり家が立っているように思えた。そして周りには目立つ高い建物もなかった、これは地震のせいなのかなあと思った。そして、空き地などでは、レンガを多く生産している様子が伺えた。街を出て、山道を走った。道中揺れがとても激しく感じた。ジープなどの大型車でないと走ることはままならないように思える。数時間かけて、パンチェットに着いた。

村ではネパールの伝統的なおもてなしであろう、赤く染色したコメを頭につけてもらい、首に布を巻き付き、花を貰った。おもてなしを一人一人にする文化は村ならではのものに思えた。村では様々な体験をした。日本では決してできないような体験だった。水は当たり前にあるわけなく、電気もあまりなく、ガスは通っていなかった。トイレも独特の形をしていた。食べ物も、冷蔵庫のないこの環境で腐らせないために、香辛料がたくさんついていた。動物の観察をしていると、一家に家畜は必ずいるような形になっていた。その中で人間との関わりを主に見ていた。牛は農業などで畑を耕す際に使い、犬は番犬として村の範囲を、他の犬から守っていた。それを見ていると、牛を使い畑を耕しそこで育てたとうもろこしを、人と動物が同じものを食べ残ったものを、犬が食べ、それらの糞などを肥料にして、また畑を耕す、この無駄のないサイクルが村ではできていた。これはすごく素晴らしいことだと感じた。村を出て、ビンゴテ村に向かった。発展している村のように感じたが、その分村の人との間に心の距離を感じた。

初めの学習会で「行動力をつける」という目標を自分なりに考えた。自分は力も体力もあまりないので、言葉が通じなくても、積極的にコミュニケーションをとっていく。ということをしようと考えた。この目標の行動力は果たしてついたのであろうか、自分なりに、79点ほどだと思ふ。もっとまだまだ深く関わることができたように感じている。そして行動を起こすだけでなく、責任をもって行う「持続性」をつけようと思った。村の人達に会ったが、貧しい生活をしていても、笑顔であった。お金があるかないかでは、幸せの度合いは測れないと思ふ。お金があるから幸せとは限らないし、お金が無いから幸せじゃないとも限らない。日本にいるとこんなことを考えることもなかつたろうと思つた。日本に帰って来たあと、布団や食べ物日本が恵まれている環境であるこ

とを改めて感じた。普段のことに感動を覚えた。今回のネパールスタディーツアー人生で二度とないようなとても貴重な経験をした。本当に行ってよかったと思う。